

准組合員を「農業振興の応援団」にしていくために

准組合員読者を「農業振興の応援団」になってもらうためには、以下の5つを「してもらう」ことを、誌面を通じて強調していくことが大切です。

- ① 准組合員とは何かを理解してもらう
- ② 地元農業を理解してもらう
- ③ JAの農業応援商品の利用やJA祭りなどのイベントに参加してもらう

- ④ 産直などを通して、地元産農畜産物を購入してもらう
- ⑤ 援農ボランティアなど、農業や農家組合員を応援する活動に参加してもらう

以上5つのパターンを准組合員の理解度や参画度合いを見ながら、ターゲットを明確にした誌面を作り、農業やJAの応援団を育てましょう。

パターン

1 准組合員を意識してもらう

「JA広報通信」に掲載している、共通コンテンツは自由に掲載できます。今年度は、正・准組合員をメインターゲットとし、協同組合とは何かを解説しながらJAの事業や役割を

訴求していきます。JA広報誌はもちろん、准組合員や地域住民向けのコミュニティ紙にご活用ください。

知って納得JA

—協同組合の力—

Q JAは何をしている協同組合なの？

A 農業を中心に、地域住民の暮らしをより良くするための事業を行っています。

JAは「農業協同組合」なので、地域農業を発展させ、組合員の暮らしを守り高めることが最も重要な目的です。農業の生産力を高め、農業所得を向上させるため、営農技術の指導の他、安全で品質の良い肥料や農薬、農機具などを適正な価格で提供するなど、農家を総合的に支えています。

JAでは「農業」を農地、食べ物、地域の暮らしや環境なども含めて広い意味で捉えます。学校給食への農産物の提供や農業体験などを通じて地産地消を促し、農業と食・暮らしをつなげています。信用・共済事業の他、高齢者福祉事業なども行い、地域にくらす人々の生活をより良いものにすることで、地域の活性化に貢献しています。

(監修=広島大学 助教 小林元)

JAが行っている主な事業

指導事業 	農家にアドバイスをする仕事です。職員が農家のもとに出向き、おいしく安全な農産物の作り方や家庭の育て方、農業の経営などについて相談のっています。
販売事業 	農産物などを販売する仕事です。農家から集めた農産物を共同で市場に出したり、直売所で販売したりしています。農産物を適正な値段で販売することは、農家の経営を支えるためにも大切なことです。
購買事業 	質の良い物をまとめて買って分ける仕事です。共同購入のしくみで、安全で品質の良い肥料や農薬、家畜の餌、農業機械、くらしに必要な物を計画的にまとめて買うことで、組合員は安定的に購入することができます。
信用事業 	組合員からお金を預かり(貯金)、それぞれの組合員が必要なときに、借りることができる(貸付)ようにするなどの仕事です。集まったお金は組合員の農業やくらしのために役立てられ、地域の金融機関として大切な役割を果たしています。
共済事業 	組合員やその家族、地域の人が安心してくらすための仕事です。組合員はあらかじめ一定の「共済掛金」を拠出して共同の財産を準備し、火事や病気、自動車事故などが生じた場合に「共済金」を支払います。

 耕そう、大地と地域の暮らし。

共通コンテンツ 2017年5月号

共通コンテンツ 2017年6月号

知って納得JA

—協同組合の力—

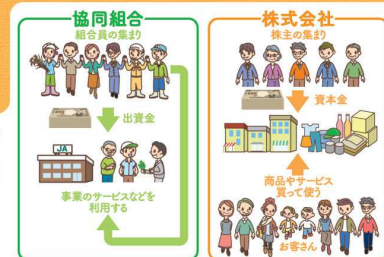
Q 協同組合と株式会社はどが違うの？

A 組合員が自ら運営し、共通の願いを実現することを目的にしていることです。

株式会社は、より多くの利潤を得ることを目指す組織です。株式会社の構成員は株を所有する株主であり、株をたくさん持っている人の思いや願いが優先されます。また、株式会社がより高い利潤をあげれば、株主はより高い配当を得ることができます。

他方で協同組合は、共通の願いを実現するために組合員が結集した組織です。出資した組合員自らが組織の事業を利用、一人一票で運営を行い、これを協同組合の三位一体性(出資、利用、参画)と言います。協同の利益は組合員に分配されるほか、組合員の暮らしをよりよいものにするための取り組みに活用され、好循環を生み出すことができます。

(監修=広島大学 助教 小林元)



「協同組合」と「株式会社」の違い

	協同組合	株式会社
目的	組合員の生産と生活を向上させること	利潤の追求
組織している人たち	農業者、漁業者、森林所有者、勤労者、消費者、中小企業の事業者などの組合員	投資家、法人(株主)
運営する人たち	組合員とその代表者	株主の代わりに運営する経営者
運営方法	1人1票制(民主的な運営)	1株1票制(株式を多く持つ人が支配)

 耕そう、大地と地域の暮らし。